編集後記

編集長（ダン　シロウ）

「ついログ」初期の記事を見ていたら、『2011年2月28日　月刊ケアマネジャー誌に三年連載してきた最終回掲載号が届く。「木陰の物語」を連載中の月刊「少年育成」誌も3月で休刊になる。何かが終わると、また新たなことが始めたくなる。もっとも、今はすでに新しいことを始めているので、ほどほどだ』。こんな記述があった。

連載誌が潰れた『木陰の物語』は、翌春から現在連載中の『月刊学校教育相談』誌に引っ越して13年目になる。

ここに書いている新しいものというのが当時、創刊第4号を迎えていた対人援助学マガジン。二週間後には、東日本大震災/津波/原発事故に直面している。

それが今回59号でいよいよ次号は60号。創刊十五年になる。だからなんと言うモノでもないが、少人数でスタートした学会が、15年経って会員も350名強。この会員数でマガジンには50人以上の連載執筆者がいるのだから、かなり珍しい。

先日、2024年11月2、3日に開かれた今年度大会に参加しながら、マガジン主催の企画を来年は出してみてもいいかなと思った。いろんなものが大きく変わっていっている気がする今、もう一つくらい世の中に付け加えるモノを考えてもいいかなぁと思った。

編集員（チバ　アキオ）

京都大会を支えてくれたスタッフには、京都光華女子大学の学生さんと職員もいました。京都大会事務局のお誘いに、参加もオッケーでかわるがわる 2 日間、準備、受付、事務、撤収を一緒にしてくださいました。

皆さんが見ているホームページの更新は広報担当の乾先生と学会の事務局川原さんが連絡を取って進めてくださいました。いつもこのマガジンの発刊も支えてくださっています。

情報交流会の食事も頼んでよかった。金額の枠がある中で、家庭的で、季節にちなんだメニューをケータリングで提供してくださいました。下見もしてくださって、温かい食事や飲み物の提供を実現するため、保温設備も持ち込んでくださいました。また、食品ロスの観点から持ち帰ることもできるよう容器なども準備してくださいました。

大学の職員の方々も、学会の社会的意義も考えて、土日のイベントが立て込んでいる中で、教室の利用に協力してくださいました。立て看板なども使わせていただき助かりました。

マガジン執筆の方々とも京都で会うことができました。今回はマガジン編集部チームによる大会運営でもありました。これまで行ってきたマガジン企画は大会でエントリーはできませんでした。先日のマガジン編集会議では、次回の大会はエントリーしようという話になっております。お楽しみにしてください。

…ということで、マガジン合宿を復活します。2025年2月15日（土）～16日（日）の予定です。詳細決まりましたら、またお知らせします。まだまだ、続きますよ。

編集員（オオタニ　タカシ）

まさかと思うようなことが続いています。衆議院選挙の結果、トランプ大統領の再選、そして韓国での戒厳令の発令…。しかしよくよく考えると、ロシアによるウクライナ侵攻もそうであったように、世界は数年前から「まさか」が通じない時代へと突入していたのだと思い知らされます。

『変化にはよい変化も、悪い変化もある』『重要なのは変化することで、よい変化だけを起こそうというのは不可能』というのが、今号の編集会議で一番印象に残った言葉で、歴史を振り返れば納得するしかない。よい変化しか重ねてこなかったのであれば、今頃よ

ほど素晴らしい世界になっていなければ、計算が合わないですから。
昨日の学会の公募ワークショップで出ていた話題ですが、私たちは「日本人として生きる」「男性として生きる」というような大きな物語を生きると同時に、「私として生きる」という小さな物語も生きています。激しく変化する時代について話題にしながら、一方で次世代の就職話にも議論が及ぶ編集会議が、それを体現しているように感じました。

対人援助学マガジン

通巻59号

第15巻　第3号

２０２４年１２月１５日発行

http://humanservices.jp/

■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は

danufufu@osk.3web.ne.jp

マガジン編集長宛てに

第60号は2025年03月15日

発刊の予定です。

原稿締切2025年02月25日！

執筆希望者、常に募集

本誌は常に書き手に門戸を開いています。新たなジャンルからの、執筆者の登場に期待します。自身の生活スケジュールに本誌「連載」を持ち、継続的に、自分だからこそ描ける分野の記録を発信したいという方からのエントリーを待っています。ページ制限なしの連載誌です。必要な回数、心置きなく書いていただけます。ご希望の方、編集長まで執筆企画をお知らせ下さい。執筆資格は学会員であること。 現在非会員で書いていただく事になった方には、本誌は学会ニュースレターの位置づけですので、対人援助学会への入会をお願いしています。

対人援助学会事務局

540-0021

大阪市中央区大手通2-4-1

リファレンス内

TEL&fAX学会専用　06-6910-0103

表紙の言葉

私が子どもの頃、野良犬や狂犬病予防の話、保健所職員の野犬狩りなどは日常的だった。『犬とり』と呼んで、輪っかにした針金を持って犬と係員が戦っている光景はよく目にした。

欧米から伝わる動物愛護の話は、絵空事に思えるほど多くの殺処分が犬猫に行われていた。それが今では、動物愛護法（１９７３年に議員立法で制定されたらしい）も定められ、本誌連載の保護ネコ活動のような時代になった。

このイラストはあの時代に、子どもの情操教育に良いと犬を飼い始め、必要が無くなったからと保健所に連れていくよう義母から命じられた婿養子の父親の体験談マンガ「ジョンの仕事」の一コマだ。

２０２４／１２／１５